1964年　県内　畜産の主な出来事

（１）卵価安戦後最低を記録

昨年度の高値とは反対に、今年に入ってから卵価は暴落してしまった。その後も低迷を続け、７月10日には138円（全販連大阪支所一級品高値）と戦後最低値をつけた。飼料高と相まって養鶏農家は苦境におちいったが、県経済連では、この鶏卵の暴落に備えて300羽以上飼養農家を対象に、10月１日より卵価補償制度の実施を始めた。

（２）家畜保健衛生所の整備

県下28ヵ所の家畜保健衛生所は昭和25年設立以来15年間にわたり輝かしい県畜産の蔭の力としてたゆまぬ活躍を続けてきたが、今年度から最近の畜産情勢に対して、予防衛生に重点をおいた効率的な家畜衛生活動が行えるよう９ヶ所（岡山、和気、倉敷、笠岡、高梁、新見、勝山、津山、美作）の基幹家畜保健衛生所を中心とした組織に統合整備し、新発足した。

（３）畜産会のコンサルタント事業開始

昭和30年より始まった畜産技術経営診断事業は、発展期の我が国畜産に多大の貢献をしてきた。しかしながら、最近の畜産を専業ないし主業とする先進的な畜産経営のためには、十分に要請に応えることが出来ないので、38年度で経診事業は終え、今年度から新たに総合的な診断分析を行ない、専門的畜産経営の育成を指導するため畜産コンサルタント事業が実施された。これは各分野の専門家によるコンサルタント団を設置し、受診地区の畜産指導員と密な連繋のもとに、適正な指導の濃密化と技術の向上を図るを目的としている。岡山県でも浅口郡鴨方町川上郡川上町を始め、19ヵ町村が受診している。

（４）総畜ミートセンター設置と大消費地への枝肉出荷

岡山県総畜は1,600万円の資金を投じ、岡山市桑田町の旧畜連跡へ冷蔵庫45㎡、食肉処理場58㎡、車庫120㎡、冷凍自動車２台を設置した。生畜の生産販売のみであった総畜が枝肉の処理販売に一歩を踏出したわけで、設置以来農村への還元と東京大阪へ冷凍車で枝肉を出荷している。大阪の阪神百貨店には「備前岡山肉センター」を設け消費者へ直接販売し好評を博している。

（５）県酪連の一時分裂騒ぎ

38年の暮から始った事業連問題に端を発した酪連の分裂騒ぎは、６月に入り最悪の状態となって反対を説える役員連によって新岡山県酪農共同組合が設立された。その後、各方面からの調停、話し合いによって一応９月にはもとの鞘におさまり、酪農民の代表として努力してゆくことになった。

（６）乾草の商品化事業発足

昭和36年より実施した美作地域大規模草地改良事業も本年度をもって終了し、草地造成600haその他の施設で約１億６千万円を投入したが、県はこの草地600haを中心とする蒜山地域で生産される牧草のうち生草給与、放牧等に利用した余剰牧草を大型乾草施設により乾草の商品化を行なって、同地域はもちろん県内酪農飼育経営の安定化を図るべく本年６月800余万円を支して、一連の大型機械その他の施設を真庭郡川上村の県営乳牛育成場に設置した。

（７）生乳給食恒久化さる!!

牛乳給食の始ったのは昭和33年、これは牛乳がだぶついたとき即ち余乳対策としてのものであったが、今年度から牛乳消費の安定的増大を図ることにより、酪農の健全な発達に資するとともに児童生徒等の体位の向上に寄与するために恒久化の第一歩を踏出した。本県でも今年度から児童生徒の31%を対象に生産生乳の約3.0%を実施し、44年度までに全児童に実施する計画である。特に酪農主産地等の学校に高温処理施設を設け、安価で継続的に実施するよう指導し、好評を博している。

（８）豚鶏資金制度の設置

近時における養豚および養鶏経営の変化はめざましく、零細経営から大規模経営、企業的経営へと経営形態が変ってきた。

このような動向に対処し、安定的な経営構造の確立と主産地を形成する目的で緊急かつ多額に資本投資するため、農林漁業金融公庫から低利、長期に融資し、生産性の高い企業家を育成させるための融資制度として、新しく豚鶏資金制度が設けられた。

（９）県主催の畜産共進会最終美を飾る

今年の岡山県畜産共進会は第20回を数え、新見市において10月２日から４日間にわたり盛大に開かれた。県主催の共進会は今回で一応終りをつげ、来年からは専門団体の主催で行なわれる。また今回の共進会で選ばれた種豚が、本県では始めて全日本豚共進会に参加し、種豚のヨークシャー種の部で二等、ランドレース種が三等、肉豚ではヨ、ラ種とも三等に入賞し、本県の豚がすでに全国水準に達していることを示した。

(10) ジャージー優良牛98頭を輸入

岡山県では酪農振興施策の一環として、ニュージーランドからジャージー優秀種牛98頭を導入し、11月１日受入れ希望農家に引渡した。

導入地は川上、八束、湯原、中和、美甘、新庄の各町村で、この蒜山地域を中心として、県北ジャージー乳牛の質の向上をはかり、酪農の一段の飛躍が期待される。

(11) 肉用牛飼育頭数７万頭台に激減

乳用牛飼育頭数３万頭台に載せる。しかしながら乳牛は２、３才のものが多く屠殺されている。

短波で『畜産アワーを』きこう

「国有林とともに」「畜産アワー」 1月放送予定表

企画　中央畜産会・農林放送事業団　　放送　日本短波放送　毎朝午前７時から７時15分

日	曜		題目	出演者
1	金	国有林とともに	これからの日本林業の課題	林野庁長官　田中重五
2	土		年のはじめに	お便りと音楽
3	日	畜産アワー		
4	月		畜産よもやま話	日本経済新聞　山地　進他
5	火		畜産随想	産経新聞論説委員　森　有義
6	水		年頭に当って　―畜産指導強化の年―	中央畜産会副会長　八木徹雄
7	木	国有林とともに	民有保安林買入れ制度　①	林野庁調査課担当官
8	金		〃　②	〃
9	土		考える農業　②　野菜	千葉大学園芸学部教授　中島忠重
10	日	畜産アワー	熱のこもった乳牛の集団衛生	栃木県真岡市にて収録
11	月		多頭羽飼育と家畜伝染病	農林省畜産局衛生課長　高村　礼
12	火		家畜防疫の水際作戦	農林省動物検疫所長　唐沢　進
13	水		畜産相談	
14	木	国有林とともに	市町村建設促進法による国有林の売払い①	林野庁調査課担当官
15	金		〃　②	〃
16	土		ビニール園芸入門　⑩	東京農業大学教授　松原茂樹
17	日	畜産アワー	成果あがる豚コレラ対策	愛知県豊橋市にて収録
18	月		伝染病の予防（豚）①	農林省家畜衛生試験場製造部長　笹原二郎
19	火		〃　②	〃　〃
20	水		〃　③	〃　〃
21	木	国有林とともに	入会林野の整備　①	林野庁課査課担当官
22	金		〃　②	〃
23	土		考える農業　③　果樹	元神奈川県園芸試験場長　藤田克治
24	日	畜産アワー	集団で阻む鶏の伝染病	滋賀県長浜市
25	月		伝染病の予防（鶏）①	日本生物科学研究所学術部長　高松泰人
26	火		〃　②	〃　〃
27	水		畜産相談	
28	木	国有林とともに	農業の為の国有林の活用　①	林野庁林政課担当官
29	金		〃　②	〃
30	土		ビニール園芸入門　⑪	東京農業大学教授　松原茂樹
31	日	畜産アワー	集団衛生管理の成果	茨城県新利根開拓農協にて収録